

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 金沢市立 戸板小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒920-0000
金沢市戸板第二土地区画整理事業地 47-1 街区 1 番地

E-mail : なし

Website : http://cms.kanazawa-city.ed.jp/toita-e/

児童生徒数：男子 名 女子 名 合計 602 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。3年 「大豆発見隊」

前期の最初に、「大豆はどのようにできるのか」「大豆製品にはどんなものがあるのか」「大豆から豆腐や納豆にどうやってできるのか」等々、大豆についての疑問を出し合い、それらの疑問を解決していこうと、調べていくことにした。まずは、自分たちで大豆を植えて、大豆の生長を観察していった。また、大豆製品に注目し、醤油や豆腐、味噌などの作り方を調べることにした。醤油博士に出前授業をしていただき、醤油の作り方や秘密を知ると、豆腐や味噌、もやしなど、身近な大豆製品については学級ごとに調べ、作ってみるようになった。校区にあるもやし工場を見学したり、豆腐や味噌造りの名人に来ていただき作り方や秘密を教えていただいたりして、3種類の大豆製品作りに挑戦した。11月に行われた「フェスティバル in 戸板」では、調べてわかったことや作って思ったことなどを地域の方や他学年に詳しく発表した。



体験や見学などを通して、大豆を深く知ることで、身近な大豆に気づき、製品作りのこだわりや苦勞を知ることができた。そして、昔ながらの製法を取り入れた先人の考えに寄り添いながら、先人の知恵と技術のすばらしさを感じることができた。

4年 「めざせ！エコスクール！」

今年度、本校は新校舎となり、環境にやさしい学校としてさまざまな設備を設けた。そこで、4年生では、「めざせ！エコスクール！」をテーマとし、エコやエコの必要性を知り、学校や家庭のエコについて考えたり調べたり、実践したりする活動を行った。まず、自分たちが考えるエコとはどのようなものかを話し合い、身近なエコについて考えた。また、理科の学習の一環として、ベランダ菜園を生かしてグリーンカーテンを設けた。さらに、自分たちが作り出すエコ活動だけでなく、太陽光パネルや雨水タンク、中水利用等、新校舎にはエコについてさまざまな工夫があることを知り、実際に見たり、聞き取り調査をしたり、実験をしたりする活動を通して、エコについての理解を深めた。11月に行われた「フェスティバル in 戸板」では、各グループに分かれて、調べたことを地域の方や他学年に模型やパネル等を使って詳しく発表した。



家庭、学校といった身近にあるエコについて調べ、理解を深めることにより、自分ができるエコ活動を考えることができていた。今年度の学習を生かして、5年生での地域へと視野を広げた環境学習へとつないでいきたいと考える。

5年 「わたしたちの犀川」

4月、身近な川「犀川」の中流に出かけ、見た目の様子を観察し、感じたことや発見したことを発表し合った。犀川の歴史や自然に興味・関心を持っていることが明らかになり、自分でテーマを決め調べていくことにした。夏休みには実際に橋を調べるために親子で見学に行く子や下流から上流までたどって歩く子などもおり意欲的な姿が見られた。学年全体では、水のきれいさに注目し、犀川の水はきれいかを中心に据え調べていくことにした。まずは、水のきれいさは水生生物でも調べられるということが分かったので、9月には、犀川若宮大橋付近で水生生物を捕獲し、水質階級の判定表をもとに、犀川の水はきれいだということが分かった。話し合っていくうちに、上流や下流ではどうだろうかという疑問が出てきた。そこで10月の秋の遠足では、上流や下流に出かけ、水のきれいさ、周りの様子、石の形や大きさ、水の流れ方などの視点を設けて観察し、中流との違いを見つけることができた。さらには、犀川にゆかりのある人や犀川と関わっている人の取り組みなども調べた。



こうして調べたり考えたりしたことを校内や保護者、お世話になった方に「フェスティバル in 戸板」で発信した。また里山の取り組みを通して環境について考えている杜の里小学校と交流したことも学びを深めることにつながった。

6年 「金沢発世界行き」

児童の金沢に対するイメージの実態把握を含め、「金沢ってどんな町かな」と投げかけることから本年度の学習がスタートした。子ども達はこれまでの学習を生かした発言や生活経験から感じていた金沢に対する印象を出し合った。「金沢城や兼六園、東山の茶屋街や武家屋敷がある」「金箔などの伝統工芸がさかんだ」という発言が多く出された。「金沢は、歴史がある名所や建造物がたくさんある都市だ」とまとめることができた。そこで、「歴史都市」として



認定されたことを紹介し、「もっと深く金沢のことを知りたい」「金沢のことを紹介したい」という思いを強く持つことができた。

歴史的建造物で調べたいところを見つけ出し、「華やか金沢」や「子ども金沢市史」等の書物やインターネットで金沢に対する理解を深めた。そして、実際に町探検に出かけ、金沢の歴史ある街並みや建造物に直に触れることができた。これらの活動で得たことを発信しようということで、9月に中国・韓国の方に金沢の魅力を紹介することができた。子ども達は、街並みや建造物が金沢と大きく違うことに驚くと共に、合わせて話して頂いた生活様式や文化について興味を抱くことができた。交流会を通して、これらを次の視点として定めることができた。

金箔や加賀友禅などの伝統文化についても実際に見学し、書物やインターネットを通じて調べた。調べることで、より金沢のよさについての理解を深めることができた。調べたことをもとに1月には、ロシア・ブラジルの方とも交流し、金沢の文化のよさを紹介することができた。外国の方々からもそれぞれの国の金沢と違うところや姉妹都市という金沢とのつながりについて教えてもらい、驚きながら興味をもって交流ができた。この1年間、いろいろな国の方との交流を通して、視野が広がるとともに、自分たちの町、金沢の魅力を再確認できた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

■ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（ ）